

(シラバス)

科目名	公共哲学特論	担当教員	山脇 直司
科目属性	専門科目群 E群	単位数	2単位(面接:0.5単位)
<b>【授業概要】</b> アメリカのマイケル・サンデルの影響などで日本でも知られるようになった公共哲学とは、「善き公正な社会を追求しつつ、現下で起こっている切実な公共的諸問題を市民と共に追求する実践的学問」と定義できる。授業では、このような意味での公共哲学を、共生社会実現のための学問として位置付けつつ、教育、福祉、科学技術、医療、国際社会、ジャーナリズムなどの分野での実践的学問として展開したい。			
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 英語のパブリックの意味や、日本語の公共の概念を明確に理解する。 2. 教育、福祉、科学技術、医療、国際社会、ジャーナリズムにおける公共哲学の重要性を理解する。 3. 民主主義的世論形成のために何を考え、何を実践するべきかを考える。 4. 現代社会の中で、善き公正な共生社会実現のために、教育が何をできるかを討論する。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 公共哲学は何を目指すか 第2回 公共哲学の「人間—社会」観 第3回 同上 第4回 教育における公共哲学の役割 第5回 同上 第6回 福祉に対する公共哲学の役割 第7回 同上 第8回 科学技術と医療に対する公共哲学の役割 第9回 同上 第10回 国際社会における公共哲学の役割 第11回 リップマンの世論とメディア批判 第12回 教育と民主主義と公衆に関するデューイの見解 第13回 リップマンとデューイの双方を生かしつつ、乗り越えるための課題 第14回 善き公正な共生社会の実現のために、どのような教育が望ましいか、何を行うべきかについての討論 第15回 同上			
<b>【評価方法】</b> 「スクーリング評価」(20%)、「授業後に出すレポート評価」(30%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。			
<b>【教科書】</b> 山脇直司『社会とどうかかわるか』(岩波ジュニア新書 2008)、『公共哲学からの応答——3.11の衝撃の後で』(筑摩書房 2011)、『共生社会の構築のために、教育、福祉、国際、スポーツ』(星槎大学出版会、2019) リップマン『世論 上下』(岩波文庫 1987)、デューイ『学校と社会』(岩波文庫 1957)、『公衆とその諸問題』(ちくま学芸文庫 2014)			
<b>【参考図書】</b> 山脇直司『公共哲学とは何か』(ちくま新書 2004)、『グローバル公共哲学』(東京大学出版会 2008)、			